

7月30日(水)～8月4日(月)

No Water, No Life

決まった形も色もない水…高温多湿の風土で生きる日本人にとって、水に対する感謝・畏敬は私たち日本人の気質となり、淡やかな感受性を育んできました。定まることを知らず、流れにまかせること、一期一会の表情のはかなさを受する国民性が長きにわたり、「水」を表現の対象としてきました。千変万化する表情に表現の世界ではチャレンジが続いてきました。そのような水の表現をご覧いただく第1部と、水が営みに直結している生き物の表現の2部制での展覧会です。水…何気なくも、なくてはならないモノに気づきがありますよう、ご高覧いただけましたら幸いです。

水環琴の演奏と出品作家有志によるギャラリートーク ■8月2日(土)午後3時から

〈出品予定作家〉

【1部】青木 成実 岩谷 晃太 太田 魁 狩俣 公介
北 浩二 坂本トクロウ 中島 健太 野地 美樹子
【2部】伊藤 正人 井上 裕起 岩田 壮平 大森 晩生
金丸 悠児 下山 直紀 田中 武 藤原 裕之
松枝 悠希 松崎 和実 松田 重仁 吉水 快閑



(敬称略・50音順) 中島 健太「匿名の地平線-ver.monochrome-」(P80)

8月6日(水)～11日(月・祝)

かたち

昭和100年記念 言葉と象で振り返る昭和展

2025年は昭和100年にあたります。昭和が生み出した、または青春を過ごされた思い出の言葉を、現代美術界を代表する書家に、そして昭和時代を象徴する心象、事象の造形を巨匠から新鋭に至る多彩な立体造形作家によって作品化していただきました。展観を通じて昭和という時代の価値観や歴史の流れを感じていただけたら幸いです。

〈出品作家〉

【書】

池田 桂鳳 井茂 圭洞 石飛 博光
黒田 賢一 下谷 洋子 高木 厚人
日比野 博風

【立体造形】

相原 健作 浅野井 春奈 足立 篤史 池川 直
黒川 見彦 小島 久典 嵯峨 卓 杉浦 誠
鈴木 篤 能島 征二 蛭田 二郎 深井 隆
藤本 明洋 ますだまや 益田 芳樹 丸山 智巳
三田村 有純 宮田 亮平 吉野 毅 吉水 快閑
(敬称略・50音順)

8月13日(水)～18日(月)

志水 堅二 展 日本美術×ブリドリ

志水先生の画業は日本画と洋画の融合の模索から始まり、枯れた花や古びた道具をモチーフに時の流れを表現するようになりました。錆びた鳥の玩具から発案されたオリジナルキャラクター「ブリドリ」は、キャラクター文化のアイコンでもあります。ブリドリを描き始めて16年、古典と現代、過去と現在の融合した美術表現を探索し続ける志水先生。今展では尾形光琳、酒井抱一、葛飾北斎など江戸美術の先人たちの作品や意匠をとり入れた作品を展覧いたします。



「舞利鳥散歩図」(F10)

ふじ わら ひろ ゆき

藤原 裕之 展 ～水中への誘い～

魚に魅了されて40年、藤原先生は今なお水族館や海や川など、魚に出会う時間を大切にされています。水面下の魚たちに繰り広げられているドラマなどを想像しながら、水中の景色と心象を重ね合わせ、生命の鼓動を日本画で表現されています。この機会にぜひともご覧ください。



「赤い魚」(8F)

8月21日(木)～25日(月) ※8月20日(水)は全館休業日

コシノヒロコ 展 -美の探求そして継承へ-

ファッションデザイナーという枠を超え、生涯を通じてアート制作にも情熱を注がれてきたコシノヒロコ先生。その芸術性は国内外で高く評価されています。幼少期に親た歌舞伎や文楽などの日本伝統芸能は、色彩感覚に大きな影響を与え、先生の作品世界の礎となりました。「子ども時代に何に触れ、何を体験するかが、感性や美意識の形成にとっていかに大切であるか」と語るコシノヒロコ先生は、その想いを次世代へと伝えることを大切にされています。今展では、彩り豊かな作品群に加え、独自の技法による墨絵などを一堂に展覧いたします。ぜひこの機会にご覧ください。

ギャラリートーク ■8月23日(土)午後3時から

8月27日(水)～9月1日(月)

わか お まこと

-幽雅- 若尾 誠 作陶展

若尾先生は、岐阜県多治見市で陶土による青瓷の創作に懸命に挑まれています。その青瓷の中でも、「粉青瓷(ふんせいじ)」と呼ばれる、素地が褐色の陶土に釉薬を厚くかけた、不透明な薄い青色のものが先生の最も得意とするところです。緩やかにうねりを帯びたボディに、美しく青い釉薬がかかり、貫入の景色と相まって、得もいわれぬ魅力を放っています。ぜひご高覧ください。

粉青瓷茶碗 銘「静雅」
(13.5×13.2×高さ11.6cm)

あき やま たかし

秋山 隆 木彫展

1975年広島県生まれ、2000年広島市立大学芸術学研究科彫刻専攻修了。秋山先生の彫られる動物たちはディテールに拘りながらも、躍動感に満ちています。近年「自然と人工」をテーマに制作されており、有機的な曲線と人工的な直線のコントラストが今展の見どころです。

「月」
(22×52×高さ16cm)

8月6日(水) 18日(月)

※8月12日(火)は開催いたします。

かわ きた

川北 ゆう 展 Detail of the Day



川北先生は、絵具やインクや水を用い、感覚や自然現象のなりゆきにまかせて揺れ動いた線の痕跡を画面に定着させた作品を展開されています。時の流れの機微が可視化されるかのように細かな動きのある画面は、強く優しく、ユーモラスで、鑑賞者の心に深く沈降します。画面に現れる揺らぐ線と色の重なりは、いつの間にか忘れてしまう感情や記憶が蘇り、時間を重ねて生きることを慈しむ気持ちをも思い出させてくれます。この機会にご高覧ください。

「2025.05.06」(53.0×33.3cm)

8月21日(木) 9月1日(月)

※8月20日(水)は全館休業日 ※8月26日(火)は開催いたします。

とみ た な つみ

富田 菜摘 展 ReBirth



「角造」(65×165×高さ108cm)

今展では、サイやキリンなど、見上げるほど迫力のある大型の動物たちから、手のりサイズの亀など、廃材から生み出される様々な生きものたちの新作を一堂に発表いたします。富田先生が手掛け“ReBirth”した生きものたちのあたたかな生命感が空間いっぱい広がる、賑やかでカラフルな富田ワールドを、どうぞこの機会にご高覧ください。

高島屋大阪店美術画廊・展覧会のご案内はホームページ、Instagramからもご覧いただけます。



ホームページ



Instagram

Instagramでは旬なアートの情報や展覧会の最新情報を随時更新中！
アート好きの方はフォローお願いいたします！
※PC・スマートフォンからご覧いただけます。

TAKASHIMAYA *art information* 高島屋大阪店6階美術画廊のご案内 2025 9・10月

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

9月3日(水)～8日(月)

第19回「この世界の地平」

国画会を中心メンバーであり現代洋画壇を牽引される先生方により2007年に立ち上げられたグループ展も、今回で19回を迎えます。著しく変化し多様化していく時代の中で、〈アーティストは個の地平を持ち、みずからそれを切りひらき、確かな個を輝かせなければならない〉という志を持ち続け、メンバー12名のそれぞれが、「描くことへの姿勢」を制作によって示し、さらに「絵画の本質」へ迫る渾身の作を一堂に展観いたします。12名の「個」が様々な響きあいながら多彩に変容していく展示空間をこの機会にぜひご高覧ください。

〈出品作家〉

安達 博文	稲垣 考二	梅澤 希人	大沼 蘭	小川 浩司
五島 綾子	佐々木 豊	田代 甚一郎	田中 いっこう	津地 威汎
前田 昌彦	増地 保男			(敬称略・50音順)

9月10日(水)～15日(月・祝)

つむぎ びと かい 紬人の会 Ⅲ

愛知県立芸術大学 日本画専攻出身6名で構成される「紬人の会」の先生方は、大自然との対話の中で移ろいゆく時と共に真実を探し、いかに自己顕示するか、挑戦と研鑽を重ねておられます。精一杯に自己と向き合い制作された作品の数々をどうぞご覧ください。

■9月13日(土)午後3時から

9月17日(水)～22日(月)

こ ばやし ゆう じ 小林 裕児と動物たち

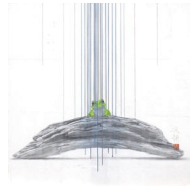
先生が深い敬意と愛情をもって向き合う動物たちとの関係性を通じて、人と自然とが織りなす不思議な物語の世界へと私たちを誘います。絵筆に導かれたその世界には、生命への賛歌と、静かな祈りが満ちています。画面に広がる幻想的なファンタジーの世界をお楽しみください。

■9月20日(土)午後3時から

9月24日(水)～29日(月)

襲名記念 十四世 坂 高麗左衛門 展

400年余りの長い歴史と伝統を誇る、由緒正しい萩焼の宗家十四世 坂高麗左衛門先生の襲名記念展を開催いたします。2022年に十四世を襲名され、今回高島屋大阪店での初お披露目となる、坂家伝統の古格を受け継いだ、清新で伸びやかな力作の数々を一堂に展観いたします。



石谷 雅詩「雨せい」(6S)

ほし の せい 星野 聖 作陶展

岡山牛窓の、茶室もある自宅兼工房の傍らに築いた半地下式窯を駆使し、窯詰め工夫と長時間焼成によって、胡麻や自然釉の流れ、微妙な色彩に豊かな窯変の鮮明な景色など、焼き締め陶でありながら華やかな作品を次々と生み出す炎の魔術師、星野聖先生。見事な土味の大甕、大壺、花器、茶器、酒器など、紐作りによる力強さ溢れる星野陶の造形の妙味を、この機会に充分ご堪能いただければ幸甚に存じます。

「備前 式石大甕」(径69.8×高さ88.6cm)

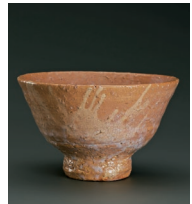


さ さ き のぶ よし 佐々木 伸佳 硝子展

佐々木伸佳先生は1980年岩手県出身、2002年に秋田公立美術工芸短期大学専攻科を修了し、富山市ガラス工芸センターに勤務された後、静岡県伊豆市にて築窯独立されます。ヴェネツィアのさまざまな吹きガラス技法を習得し、高難度で幻ともいわれるガラス中に空気を整然と並べるレティチェロや、ガラスパーツを並べて模様を作るムリーニと呼ばれる技法を独自に進化させた作品など、吹きガラスの高い技術と独自の世界観で創作される作品の数々を展観いたします。



「レース網目模様水指」(径18.5×高さ20.0cm)



「茶碗」(径14.7×高さ8.9cm)

かたち さわ だ し こう 闇を舞う心象～澤田 志功 展

ゴシックという呼び名の持つダークな神秘感を散りばめながらも、軽やかな彫刻作品に仕立て上げる澤田先生…現代人が密かに憧れる罪悪趣味をくすぐる新作約20点をお楽しみください。



「Gold Medal」(15×13×高さ31cm)

TAKASHIMAYA Art Information 2025 9・10月

高島屋大阪店6階ギャラリーNEXTのご案内

※美術画廊・ギャラリーNEXTは原則毎週火曜日を準備日とさせていただきます。店舗の営業日・営業時間等につきましては高島屋ホームページにて最新情報をご確認ください。
※作品の販売に関するお問い合わせは、美術画廊係員までお願いいたします。

9月3日(水) 15日(月・祝) ※9月9日(火)は開催いたします。

あさ か ひろ よし 浅香 弘能 -The truth of illusions-

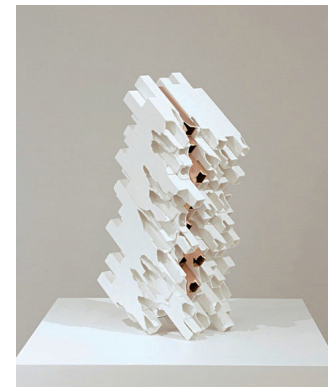


「目の前に見えているものだけが見るべきすべての事実ではない」…仮象と錯覚のテーマのもと、石彫作品とリアルなモノを混在させたインスタレーションが皆さまに問いかける会場をお楽しみください。

「KASHOUMON -(C8H8)n- 32」(41×32×2cm〈サイズ可変〉)

9月17日(水) 29日(月・祝) ※9月23日(火・祝)は開催いたします。

たけ うち こう ぞう 竹内 紘三 展 -Aspiration-



ギリシャの遺跡など、今は失われていても、かつては確かに存在していたという時間の流れを表現する竹内先生の制作の原点は、焼成前に落として割ってしまった作品が時を経て放っていた美しさにあります。自分の感覚や美意識に沿って制作してこられた竹内先生の初個展となります。

「Modern Remains Echoes」(31×23×高さ52cm)